

令和5年度第3回木津川市介護保険事業計画等策定委員会 会議経過要旨

会 議 名	令和5年度第3回木津川市介護保険事業計画等策定委員会		
日 時	令和5年10月3日(火) 午後2時～午後3時30分	場 所	木津川市役所5階 全員協議会室
出 席 者	委 員 員	<p>■安藤会長 ■兎本副会長 ■馬副会長</p> <p>■光井委員 □岩本委員 ■山本委員</p> <p>■鴛田委員 ■井上委員 ■石塚委員 ■辰巳委員</p> <p>■小石委員 ■内藤委員 □村田委員 ■入江委員</p> <p>■木下委員 ■大前委員 ■泉委員</p> <p>■島本委員 ■山川委員 ■新井委員 ■金森委員</p> <p>■：出席 □：欠席</p>	
	事 務 局	<p>山本健康福祉部長、 竹村高齢介護課長、中西高齢介護課主幹、 林高齢者福祉係長、木村介護保険係長、 森川介護保険係担当係長、赤岩高齢者福祉係担当係長 岡田主任、中畑主任 株)サーベイリサーチセンター杉原氏</p>	
傍 聴 者	0名		
議 題	(1) 第10次木津川市高齢者福祉計画・第9期木津川市介護保険事業計画の 素案について		
会 議 結 果 要 旨	<p>1 開会 開会宣言 委員18名の出席により、会議が成立していることを確認した。 (成立確認後1名出席され、出席委員19名となった。)</p> <p>2 会長あいさつ 安藤会長から開会のあいさつがあった。</p> <p>3 議題 安藤会長が議長となり、議事を進行した。</p> <p>① 第10次木津川市高齢者福祉計画・第9期木津川市介護保険事業計画の 素案について 事務局から資料1・資料2により説明した。</p> <p>4 次回委員会の予定について 事務局から10月30日に開催予定の旨、報告した。</p> <p>5 閉会</p>		

会議経過要旨

- ◎：会長
- ：委員
- ⇒：事務局

1 開会

会議結果要旨のとおり。

2 会長あいさつ

会議結果要旨のとおり。

3 議題

① 次期計画の骨子案について

【資料1】 第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画素案

【資料2】 施策の体系とアウトカム（案）について

【説明】 資料に基づき説明した。

第1章 計画の策定にあたって

第2章 高齢者等を取り巻く現状と課題

第3章 計画の基本的な考え方

1. 基本理念
2. 基本目標
3. 施策の体系

第4章 計画の具体的な取組

基本目標1 介護予防と健康づくりの総合的な推進

基本目標2 住み慣れた地域で安心して生活できる支援体制の充実

基本目標3 認知症対策の総合的な推進

基本目標4 高齢者の尊厳の確保と権利擁護の推進

基本目標5 持続可能な介護保険事業の運営

基本理念を『ともに支え合い、いきいきと幸せに暮らし続けられる心豊かな健康長寿社会づくり』に変更を検討した。また、日常生活圏域の状況について、前回素案では第3章での掲載を予定していたが、第2章に移し、圏域ごとの特徴や課題の掲載を追加した。

第4章の計画の具体的な取組について、各基本目標に事業効果を評価できる指標を掲載した。

基本目標1では、地域リハビリテーション活動支援事業を新たに追加した。施策は、通いの場の充実、関係機関との連携、生活支援体制整備の推進等による地域住民との協働、シルバー人材センターやハローワーク等就労支援部門との連携による高齢者の就労の場等の創出等、高齢者が活躍できる場づくりについて記載した。

基本目標2では、地域包括ケアシステムの推進において、日常生活圏域毎の実情に応じたサービスの充実や相談支援体制等を、また地域包括センターの体制整備や負担低減、自立型地域ケア会議への取組、重層的支援体制整備等相談窓口強化等を記載した。

基本目標3では、認知症への正しい理解の啓発や地域全体での見守りの充実について、窓口の啓発を含め相談体制強化を記載した。

基本目標4では、高齢者虐待の防止に関する啓発や、成年後見制度の啓発と相談支援の充実について記載した。

基本目標5では、適正なケアマネジメントの推進、介護給付の適正化の取組について記載した。

【主な質疑・応答、意見】

○：基本目標4の虐待防止と対策について、推移を調べているということと対策までは進んでいないという認識だが、具体的な対策は。

⇒：虐待は、通報があれば地域包括支援センターや市役所、警察が出動することになるが、通報がなければ表に見えてこないところがあり難しい面がある。虐待の事象があった際に、通報いただける体制づくりが対策につながることもあり、どのような啓発ができるのかが課題だと認識している。関係機関と連携しながら取組を進めたい。

○：高齢者実態調査からみた現状と課題の部分で、今回調査はn=1,260、前回調査はn=1,237とあるが、あえて回収率を記載しないのか。どれだけの対象人口がいて、どれだけ回収できたかということに意味があると思う。

⇒：回収率は、資料編に配布数や実施時期も含めて掲載する。

○：地域活動参加の実態と意向について、老人クラブに参加していない割合が7割を超えており、コロナの影響が伺えるという考察だが、元気な人たちのニーズと老人クラブの傾向が一致していないからではないか。前回、就労について話したが、高齢者の方は自分たちはまだまだ老人ではないと認識していて、年を重ねても元気な自分と老人クラブとの不一致から、加入への抵抗があるのではないかと。その不一致をどうするのがいいか、と思う。

⇒：老人クラブの会員数が減少している現状はある。就労年齢が65歳まで上がるなど、働いていて忙しい方が増えていると認識している。

○：介護保険指定事業者数について、木津西、加茂、山城の訪問リハビリテーションは単独型か。加茂と山城にはないのではないかと。

⇒：事業所数は、事業所からの報告に基づき作成した「いきいき介護保険」の冊子から抜粋したもので、作業療法士がリハビリ業務を行っているという報告があった訪問看護事業所をカウントしたものである。指定事業所数となると内容が異なるため、改めて指定事業所数を確認し修正する。

○：木津東の通所リハビリテーションはどこか。

⇒：老健やましろである。

○：各圏域のページの地図が見にくい。

⇒：より見やすい地図に修正する。

○：加茂圏域の認知症カフェに『くにカフェ』とあるが、場所は南加茂台公民館ではなく、瓶原ではないのか。

⇒：瓶原の『喫茶くに』で実施していた関係で『くにカフェ』という名称になっているが、4月から場所を南加茂台公民館に移し、実施している。

○：避難支援体制整備の促進について、事務局から説明の中で、喫緊の課題として要支援者の個別避難行動計画を作成中ということであったが、私が聞いている話では、今年度予算化し、来年度から実行していくとのことであった。それぞれの要支援者の状態に即した、実効性のある行動計画を作っていかなければならない。6年度からの計画を作成中ということだが、進捗はどうなっているか。

⇒：個別避難計画は、具体には社会福祉課が担当となる。かねてから早く作らなければならないということで、災害弱者に対する対策として意見を聞きながら、また先進事例を参考にしながら、市としてどのように取り組んでいくか検討している。

行政だけではなく、各関係機関との連携が必要になる。もう少し時間をいただき、次年度の予算化を含め、検討していきたい。

⇒：基本理念について、高齢者の方にとってどのような社会づくりをしていくのがいいのかということを見据え、見直しを行った。

また、第4章の具体的な取組の施策の展開の方向など、いただいた意見を踏まえながら記載した。

特に、今後は高齢者福祉事業等を進めるにあたり、介護予防が重要になるという点や、住み慣れた地域で安心して暮らすということについて、地域ごとの状況を踏まえるということも記載している。

例えば「安心できる住まいの環境づくり」で高齢化がどんどん進んでいく大規模住宅開発地域においては、個々の課題であったものが地域の課題として挙がってくるということなど、今後の課題や問題点として認識しながら進めるということを展開の方向に追記している。

○：基本理念は府の施策の方向性とも一致していて、健康と予防、これからの未来を見据え、支え合う・共生という視点も入りいいと思う。以前、市の健康増進計画の策定に携わったことがある。特に大規模住宅開発地域において、計画を策定して終わりではなく、これからの将来を見据えて携わることになる。旧地域で起きていることは、新興地域でもいずれ起こることであり、それを見据えて今何を行うかという話があった。この視点はとても大事である。

⇒：南加茂台は特に、大規模住宅開発地域の課題として挙がってくる地域である。木津西圏域では、今後高齢化が急激に進んでいくこと等を意識しながら取組を進めることが必要であると思っている。
また、新興地域での活動を、社会福祉協議会や地域包括支援センターで徐々に展開いただいているが、若い方が多いため地域の活動や催し物に参加されないとも聞いている。若い方に参加いただき、10、20、30年後に高齢化を迎える住宅地に対するアプローチも、今後の課題だと考えている。3年間の計画だけではなく、長期的な視点は非常に大事であり、地域包括ケアシステムを進めるうえで、課題の一つとして認識すべきという考えから、安心できる住まいの環境づくりという表現を入れている。

○：SDGs との関連を記載するという点で、前回6項目の目標の説明があったが、今回は貧困の部分がなくなっている。また、SDGs を意識されている特徴的な記載があれば教えていただきたい。

⇒：前回、基本目標4と5で貧困について記載していたが、具体的施策の内容的に結び付きにくいということで減らした。基本的には健康と福祉がすべての項目につながっていくと考えているが、意識した記載はできていない。

○：世界的にSDGs の取組が始まっているが、このような形で意識されているのは特徴的であると思う。貧困部分の記載についても、検討いただきたい。

○：医療と介護連携の推進で、訪問診療を受けた患者数が10万人あたり7,000人の7%、看取り数でいくと0.07%、計画の目標値は昨年以上ということで、おそらく訪問診療での看取りが充足していないことからの目標値設定だと思うが、具体的にモデルとなる地域、木津川市と似たような人口で充足しているような目標となる地域はあるか。看取りを希望されていたが受けられなかった、といった細かいニュアンスも含まれると思うが、分かりやすい数字があれば提示されたい。

⇒：この目標値は、見える化システムの数値を掲載したもので、今まで医療連携に関して数値的に追ってこなかったこともあり、実施した施策に対し効果があったかどうかを確認するためにこの数値を挙げた。看取りの目標値は、どのようなニーズあるか、そこが足りなければ充足させていくという話になる。

○：地域防災力の向上・地域で高齢者を見守る体制づくりで、民生児童委員も高齢者の見守りを続けている。関東大震災から100年の節目の9月1日前後に高齢者の方に意識づけ・きっかけづくりとして自助・共助のチラシも配布した。
本計画案の中で、「自治会と連携しながら避難行動タイムラインの作成を進め…」と記載があり、木津東部交流会館にもタイムライン（時系列で整理した防災行動計画）を自由に持ち帰れるように置いてある。

	<p>以前、危機管理課に聞いたが、自治会や自主防災会と連携しながらタイムラインを作成していて、地域によって差があるとのことであった。西部はタイムラインの作成ができていないので、タイムラインの参考例を各家庭に配布いただければ、作成のきっかけになると思う。いつ大きな災害が起こるかわからないので、自分の命は自分で守る、向こう三軒両隣お互い助け合おうという声かけもできるのではないかと。タイムラインの作成はどこまで進んでいるのか。</p> <p>⇒ : タイムラインは、危機管理課の事業であるので、詳細はつかんでいない。社会福祉協議会が中心になっている地域懇談会の中で、タイムラインの説明もあった。高齢者のみならず、地域の見守り・共助の考え方を深めていける。タイムラインの進捗については、確認してお答えする。</p> <p>4 次回委員会の予定について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>なし</p>